

新興国レポート

インド準備銀行10会合連続政策金利据え置き

国内景気の回復には継続的な政策支援が必要であると指摘

- ▶ インド準備銀行（RBI）は2月10日の会合で、政策金利を過去最低の4%に据え置くことを決定。
- ▶ 主要新興国が金融引き締めを進める中、インドは金融緩和姿勢を継続。消費者物価（CPI）動向の違い等がその背景にあるものと思われる。
- ▶ インドの1月CPI上昇率は、7カ月連続でRBIの政策目標（2～6%）内に収まった。

(1) 10会合連続で政策金利据え置きを決定

- RBIは2月10日の金融政策決定会合で、政策金利を10会合連続で過去最低の4%に据え置くことを決め、金融政策姿勢も「緩和的」を維持しました。RBIは同日の声明で、国内景気の回復には継続的な政策支援が必要であると指摘しました。ブラジルが2月2日に8会合連続で利上げを決める等、主要新興国が金融引き締めを進める中において、インドは緩和姿勢を継続しています（図表1）。CPI上昇率が相対的に低い水準にあること（図表2）や、新型コロナウイルスの感染再拡大で経済活動の正常化が遅れるとの懸念等が背景にあるものと思われます。
- 12月下旬に1万人を下回っていたインドの新型コロナウイルスの新規感染者数（7日間平均）は、オミクロン株のまん延で1月中旬には一時30万人を超える水準に急増しました（2月12日時点では6万人程度に減少しています）。RBIのダス総裁は会見で、感染の再拡大で経済活動の勢いが失われていると述べました。

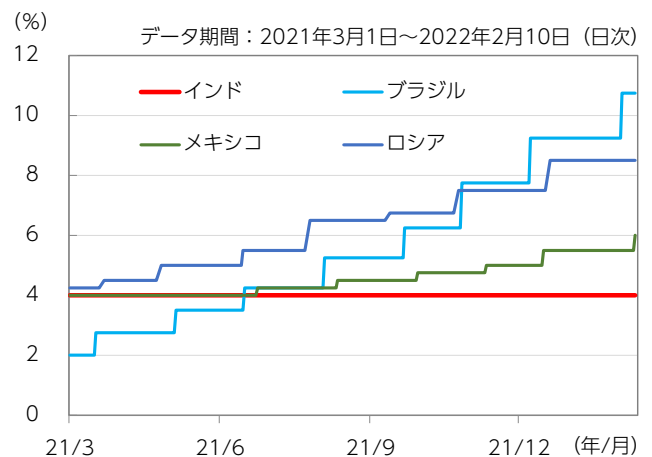
(2) インドCPIの動向

- インド統計局が2月14日発表した1月CPIは前年同月比+6.0%と、12月の同+5.7%から上昇したものの、7カ月連続でRBIの政策目標（2～6%）内に収まりました。インドのCPIは上昇傾向にはあるものの、主要新興国の中では相対的に低い水準にとどまっています（図表2）。
- 尚、今後のCPIに関してRBIは、上記会合で、2021年度（21年4月～22年3月）の上昇率は前年度比5.3%、2022年度（22年4月～23年3月）は同4.5%を見込んでおり、何れも政策目標の上限である6%を下回るとの見方を示しました。

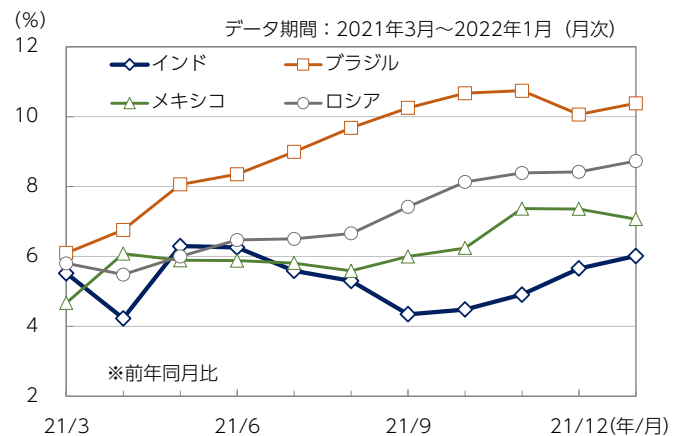
(3) インド国債金利の動向

- 欧米金利の動向等を背景に、一時急騰したインド10年国債金利等は、上記RBI会合結果や1月CPI等を受け、足元では落ち着きを取り戻しつつあります（図表3）

図表1：インドや主要新興国の政策金利



図表2：インドや主要新興国のCPI上昇率



図表3：インド10年国債金利等の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>